

うしろどおり
市川市 後 通 遺跡

須和田 1 丁目付近には、周囲の地面より若干高くなっている「須和田砂洲」(すわださす)と呼ばれる砂洲が東西に広がっていました。遺跡はこの砂洲の中央付近にあります。

今回の発掘調査では、幅約 5m、深さ約 1m に掘られた大きな溝(みぞ)が発見されました。戦国時代の文書によると六所神社に関連する屋敷地が隣接していたことや、溝の一番深い所から中世の陶磁器片がまとまって出土したことなどから、この溝は戦国時代か、それより少し古い時代に掘られたものと思われます。

この溝からは、板材を杭で固定し幅約 2m、長さ約 5m の範囲で水を貯められるようにした、堰(せき)のような遺構(いこう)が発見されました。遺構に降りるための、丸太で作られた階段も見られます。



東側から



西側から(手前右側の丸太が階段)

